



谷のはやし込み

小林 勝山はスポーツ団体が多くて、体育館の

市長 まず、恐竜というものが勝山市をアピールする最大の切り札だと考えています。当然福井県も力を入れていきますからね。

松本 新種の恐竜化石も発見されていますし。

市長 そうですね。

でも、恐竜以外の魅力もたくさんあるわけで、まずは恐竜で引きつけて恐竜博物館へ来ていただく。あの博物館はやはり素晴らしいですからね。その後にはしっかりアピールし、次は勝山市内を見ていただけるよう誘導します。

そして、実際にまちなかに来てみると、魅力のあるまちが展開されていて、いい人たちが住んでいて、おもしろいものが受けられ、そして

「ム」ということです。

健康長寿のまちづくり

松本 そのような構想の中で、現在スタートしている第5次勝山市総合計画の中からお聞きします。

まず、健康長寿のまちづくりについては、勝山の人たちが健康に過ごすために、どのようなお考えをお持ちですか。

市長 やはり、まずは気持ちだと思えます。健康でいたいとか、何かをやりたいというときには、まず健康でないといけないですから。小林 生きていくための基本ですからね。

市長 規則正しい生活や食事が大事ですね。勝山の地元食材はすごく体にいいと思っています。



ておいしい物が食べられる。こういう形ができれば一番いいわけです。ここに繋げるための切り札として、恐竜を使おうと考えています。

また、勝山に車で来られた方から、小舟渡あたりから白山を望む自然の景観が素晴らしいという声を多く聞きます。

小林 スキージャンプのコースが白く浮かび上がるのもいいですね。

市長 あのパノラマは日本でも有数だと思っています。ですから、あのパノラマを見ていい所に来たなど期待をされる。その期待通りのまちの佇まいを残し、伝統文化や景観も残し、そしてそこに、いい人たちが住んでいると分かれば、自然とリピーターが増えると考えています。

勝山に自信を持つ

中村 平成13年からスタートしたエコミュージアム構想による「ふるさとルネッサンス」については、どのくらいの成果がありましたか。併せて、エコミュージアム

そして適度な運動ですね。勝山はアウトドアにもってこいです。冬になればスキー、夏は雁が原スキー場もあるし、長尾山公園では歩くスキーもできます。チャレンジする気持ちが必要です。

小林 冬は、家にこもりがちになりますからね。

新体育館の機能

市長 今回新体育館建設が決まりましたが、これは競技スポーツだけではなく、レクリエーションスポーツを大きな会場で皆と一緒にできるというメリットがありますし、冬でもウォーキングができるように、1周200メートルくらいのコースを観覧席後方に作る予定です。ぜひ高齢者の方にも来ていただきたいですね。トレーニング機器も設置しますので、年間を通じて体力づくりができますよ。

小林 勝山はスポーツ団体が多くて、体育館の

アム構想についても説明をお願いします。

市長 私が市長になった平成13年当時には、勝山に自信を持っていない人がそんなに多くなかったですね。そのことが非常に残念でした。勝山は、こんなにいい所だけだということを分かっていただけることが大事だと思えました。それには、住んでいる人たちが勝山に自信を持っていただかなければいけないと考えたわけです。

私が市長に初当選したときのキャッチフレーズは「あなたと一緒に21世紀の勝山を作り出す」でした。当選後、これを具体化するために、「ふるさとルネッサンス」を基本理念としました。これは、ふるさとの



恐竜博物館内部



除雪作業の様子

予約が難しいと聞きます。

市長 そうですね。新しい体育館はバレーボールが3面、バドミントンなら公式競技で10面できる広さを予定しています。

また、これまで勝山市には観覧席のある体育館がなかったのですが、新体育館では約1000人が入れるようにします。

除雪は県内でトップクラス

小林 雪に強いまちづくりについてはどのようにお考えですか。

市長 基本的に、冬は雪が降るものだという認識が大事。逃げ腰にならず立ち向かう気持ちで、しっかりと雪に備えることが大切です。市としても、市民の皆さ

復興という意味ですが、輝かしい復興をするための政策展開を考えて「エコミュージアム」構想を打ち出しました。

そして、当時スタートした第4次勝山市総合計画の中に据えて、そこから10年間のまちづくりの設計図の中心の考え方にしたわけです。

具体的には、現在の勝山市を形づくってきた歴史や伝統・文化、昔から守られてきた自然景観・環境、さらには平泉寺や恐竜化石など古いものが眠っている。そういった古いものの良いところを掘り起こし、自分たちの活動の中に取り入れていくことです。

古いものには有形・無形があつて、有形のものは歴史的発掘などで出てきますが、無形のもの、住んでいる人たちが先祖のことを思い返しながらか、復活させなくてはいけない。これには大変な努力が必要なのではないでしょうか。

まちはまるごと博物館

具体的には、現在の勝山市を形づくってきた歴史や伝統・文化、昔から守られてきた自然景観・環境、さらには平泉寺や恐竜化石など古いものが眠っている。そういった古いものの良いところを掘り起こし、自分たちの活動の中に取り入れていくことです。

古いものには有形・無形があつて、有形のものは歴史的発掘などで出てきますが、無形のもの、住んでいる人たちが先祖のことを思い返しながらか、復活させなくてはいけない。これには大変な努力が必要なのではないでしょうか。

いいと思いますよ。

中村 私も同じ気持ちです。では、最後に市長の今年の抱負をお願いします。

市長 今年は市長になって3期目の最後の年になります。マラソンで言えばラストスパート。全力で駆け抜けていきたいです。

中村 私たちもこの番組を通じて、勝山の魅力を市内外へもつと伝えていきたいと思っています。

市長 ぜひよろしくお願ひします。

一同 本日はありがとうございます。



中部縦貫自動車道から白山を望む



F M番組収録風景